

# 成人型アトピー性皮膚炎患者のディストレスに関する研究

## —ディストレスの概念枠組み—

得田恵子<sup>1)</sup>, 高間静子<sup>2)</sup>

1) 富山医科薬科大学大学院医学系研究科看護学修士課程

2) 富山医科薬科大学大学院医学部看護学科

### 要 旨

成人型アトピー性皮膚炎患者のディストレスを把握し、概念枠組みを行った。その結果、「問題未解決による精神の不均衡」、「不浄視されることへの恐れ」、「掻痒感」、「身体的安楽の充足不全」、「基本的生活の欲求充足不全」、「高次欲求の充足不全」、「早期治癒への願望成就不全」、「人間関係の調整不全」、「生活スタイルの調整不全」、「アトピーに対する無理解への不満」、「不安」、「精神的サポートが得られない悩み」、「経済的負担」、「回避困難なディストレス」で成り立っていた。

### キーワード

成人型アトピー性皮膚炎患者、ディストレス

### 序

アトピー性皮膚炎（AD：Atopic Dermatitis）とは、増悪・寛解を繰り返す、掻痒のある湿疹を主病変とする疾患である<sup>1)</sup>。近年思春期以降も病状が遷延したり、思春期以降に発症する成人型アトピー性皮膚炎の増加が社会問題となっている<sup>2,3)</sup>。その原因として、家族間や職場の人間関係、受験などの心理社会的ストレスの関与が多く報告されている<sup>2-5)</sup>。しかし、患者自身が何をストレスととらえているか、どのように認知しているか、患者の言葉でとらえた報告やディストレスだけに着目した報告はない。本研究は、AD患者のストレスをより詳細に知るためにどのような質のディストレスがあるかを明らかにすることを目的とした。

本研究で述べるディストレスとは、AD患者の疾患や病状がもたらす生活上の苦痛、不安、不満、

不快、不便、不眠、不信、羞恥、安寧の欠如、悲嘆などを包含する苦悩とした。

### 研究方法

#### 1. 対象

K大学病院に通院中の成人型AD患者14名（男性5名、女性9名）とした。いずれも、入院経験があり調査者と面識のある患者で、本研究の主旨に同意した患者である。

#### 2. 方法

個室になっている外来診察室の一つを使用し、半構成的質問紙を用いて面接を行った。一回の面接時間は、約30分～60分とした。面接内容は、日常生活において、「不便、不満、恥ずかしい、不安、都合が悪い、悩んでいることなど」を問うために、AD患者が療養上の規制を伴う日常生活場面でどのようなディストレスを体験しているかを

調べた。質問は7つの生活場面（衣生活、食生活、住居環境、入浴・スキンケア、運動、睡眠、社会生活）に沿って行った。入院経験のある患者は、入院中に、医師や看護師からこれらの生活場面における注意点について生活指導を受けた経験がある。面接内容は、対象者の許可を得てテープレコーダーに録音した。

録音した面接内容は逐語録にし、その中から、不便、不満、恥ずかしい、不安、都合が悪い、悩んでいる等、患者がディストレスと感じていると判断できる部分（文章、文節）を取りだし、コード化した。それらのコードのうち意味・内容の類似しているものをグループ化し、そのグループの性質を最も表現している名前をつけ概念化した。さらにそれらの下位概念の意味・内容の類似しているものをグループ化し、そのグループ化した群の特性を要約して名前をつけ上位概念とした。

### 3. 面接時の倫理的配慮

対象者の選定については、診療科長が診療に影響を及ぼさない配慮をして選定し、調査についての説明を対象者に行い同意を得た上で、調査者が面接を行った。面接の開始前に調査者は、調査の目的と方法、プライバシーの保護、権利の保障等について、文書を用いて再度説明し、調査参加に同意した対象者から同意書を得た上で行なった。

### 4. 面接期間

2001年8月～9月

## 結 果

### 1. 対象者の背景

対象の年齢は、19～38歳（平均28歳）であった。一人暮らしは4名で、10名は家族と同居していた。

### 2. 抽出されたディストレス（表1）

面接の結果、患者がディストレスと感じていると判断できる部分をコード化すると、254のコードが確認できた。次にこれらのコード化した内容の意味が同質と判断できるものをグループ化すると、55の特徴的なディストレスが明らかになった。次に55のディストレスのそれぞれの性質を最も表現していると考えられる名前をつけて、55のディストレスをネーミング化して成人型AD患者のディ

ストレスの下位概念とした（表1）。さらにこれら55のディストレスの意味・内容が同質と判断できるディストレスをグループ化し、ネーミング化すると、成人型AD患者のディストレスの説明概念である14の上位概念が抽出された。これらの上位概念と下位概念は次に示した。

### 1) 問題未解決による精神の不均衡

この概念は、治療や原因に対して未解決な部分があることによって生じる葛藤や焦燥、疑念、自責、怒り、気持ちのコントロールができないことなど様々な思いで揺れ動いて精神が安定していないことであり、不均衡とは、つりあいがとれていないことを指す。

この概念には、「治療への焦燥感」、「原因未知への焦燥感」、「ありがた迷惑への困窮」、「親への怨念と自責との葛藤」、「経済的自立への葛藤」、「情報の氾濫と未消化」、「治療に対する疑念」、「欲望コントロール不可と悪化への不安」、「前向きな気持ちへのコントロール不全」、「自責」、「自尊心が損なわれることへの萎靡」、「怒り」などの12のディストレスが包含された。

#### ①治療への焦燥感

このディストレスは、早く治りたいという気持ちに反して治らないことへの焦りの気持ちである。焦燥感とは、あせる気持ちである<sup>6)</sup>。具体例には、「何か治るものがないか」、「治るためには何でもする」、「悪くなっていることが多いので明日はどうかという不安が絶えずある」などであった。

#### ②原因未知への焦燥感

このディストレスは、疾患の原因を知りたいがその原因がはっきりとわかっていないために、知りたいという欲求が満たされないことへの焦りである。未知とは、まだわからないことを意味する<sup>6)</sup>。具体例には、「原因を教えてほしい」、「何が悪いのか」、「原因がわからない」などがあつた。

#### ③ありがた迷惑への困窮

このディストレスは、親が良かれと思いいろいろな療法を調べてきて勧めることに対してその親切心はありがたいが、本当は断りたくても親の気持ちや世話になっていることを考えると断れず困惑している気持ちである。ありがた迷惑とは、その親切心はありがたいが実はかえって迷惑なこと

表1-1. 成人型アトピー性皮膚炎患者のディストレス

下位概念	上位概念
治癒への焦燥感 ありがた迷惑への困窮 親への怨念と自責との葛藤 経済的自立への葛藤 情報の氾濫と未消化 治療に対する疑念 欲望コントロール不可と悪化への不安 前向きな気持ちへのコントロール不全 自責 自尊心が損なわれることへの萎縮 怒り	問題未解決による精神の不均衡
生活行動の充足不全 衣類の欲求充足不全 食の欲求充足不全 住居への欲求充足不全 運動の欲求充足不全 仕事の欲求充足への葛藤	基本的生活の欲求充足不全
美的偽装への欲求充足不全 ペット飼育への欲求充足不全 楽しみの共有困難 外出に対する欲求充足不全	高次欲求の充足不全
早期治癒への願望成就不全 人の視線に対する恐れ 皮膚に対する他者のネガティブな評価への恐れ 外観に対しての自信喪失 皮疹の隠蔽 自分の身体への劣等感	早期治癒への願望成就不全 不浄視されることへの恐れ
皮膚搔痒感のつらさ 痒みによる生活上の支障 搔痒誘因への不安	搔痒感
家族の無理解への不満 友人の無理解への不満 社会の人の無理解への不満 職場の人の無理解への不満	アトピーに対する無理解への不満
安楽が得られない悲しみ 身体的ニーズの充足不全 痛み 寝具が汚れる不快感 薬剤への不快感 ケア継続履行	身体的安楽の充足不全
交友関係の調整不全 職場での人間関係の調整不全 家族との人間関係の調整不全	人間関係の調整不全
食事の調整困難 スキンケアの調整不全 衣類素材選択時の調整不全	生活スタイルの調整不全
体質遺伝への不安 薬剤副作用への不安 再入院への不安 社会のアトピーに対する理解への不安	不安
相談相手選択への悩み 悩み	精神的サポートが得られない悩み
経済的負担	経済的負担
回避困難なディストレス	回避困難なディストレス

である<sup>6)</sup>。困窮とは、こまりはてることを指す<sup>6)</sup>。

具体例には、「親がいろいろな療法を勧める」、「親の言う通りしていたら悪くなった」、「親が勧める療法を断れない」などの言葉が見られた。

#### ④親への怨念と自責との葛藤

このディストレスは、症状がよくなるにつらさゆえに親を恨んでみたり自分を責めてみたりする気持ちがもつれる状態を意味する。怨念とは、深い恨みである<sup>7)</sup>。具体例には、「こんな体質に生まれたくなかったと思うことがある」、「自分を責めたり親を責めたり葛藤する」などが見られた。

#### ⑤経済的自立への葛藤

このディストレスは、自分の力で生活していきたい気持ちと病気のために働けず親に頼らざるを得ない気持ちとのもつれである。自立とは、自分の力で独立することである<sup>6)</sup>。経済的自立とは、金銭面で誰にも頼らず自分の力で生活していけることである。具体例には、「親に経済的負担をかけている現状から自立したいができないために感じているジレンマ」であった。

#### ⑥情報の氾濫と未消化

このディストレスは、ADに関する広報が多く出ており、それらに振り回されている状態を指す。情報の氾濫とは、情報があふれるように沢山出ることである。未消化とは、読んで知ったことや、聞いたことを、まだ、自分の力として取り入れていないことである。具体例には、「情報が多くよい面のみが書かれているので正しい評価ができないまま受け入れてしまう」、「情報が多くそれぞれ異なるので混乱する」、「情報が多く迷う」などがあった。

#### ⑦治療に対する疑念

このディストレスは、治療に関して「正しいのか」という疑問があることである。疑念とは、本当かどうかと疑う心である<sup>6)</sup>。具体例には、「治療に関して疑問点が残存している」、「病気について知りたいことがまだある」などがあった。

#### ⑧欲望コントロール不可と悪化への不安

このディストレスは、悪くなったらどうしようと思えない不安な気持ちと、掻きたい、掻きたくないという欲望の調整が取れない状態のことである。悪化への不安とは、悪くなるのではと安

心できないことである。具体例には、「痒くても悪化すると嫌なので掻くの我慢する」、「掻きたくないが寝ている間に掻いてしまい悪くなるのでは、と不安に思う」などがあった。

#### ⑨前向きな気持ちへのコントロール不全

このディストレスは、皮膚の状態が気持ちの持ち方に影響し進歩的な考え方ができないことである。前向きな気持ちとは、よくなるという方向に気持ちを持つことを指す。コントロール不全は、ものごとをうまく調節してやっていくことがうまくできないことである。具体例には、「皮膚状態が悪いと前向きに考えられない」、「皮膚状態が考え方に影響する」等であった。

#### ⑩自責

このディストレスは、よくなることで自分を責めることである。自責とは、自分の悪かったことを自分で責めることである<sup>6)</sup>。具体例には、「なぜ自分だけがこんなに痒いのか」、「親を責めたりもしたが精神的苦痛を与えて申し訳なく思っている」であった。

#### ⑪自尊心が損なわれることへの萎靡

このディストレスは、自分の気持ちが傷つけられ悲しい思いでいることである。自尊心とは、自分の名誉を傷つけまいとする気持ちである<sup>6)</sup>。萎靡とは、気持ちが萎えてぐったりすることである<sup>7)</sup>。具体例には、「宗教に勧誘されるのは弱みにつけ込まれているようでつらい」、「宗教に勧誘される」であった。

#### ⑫怒り

このディストレスは、ある事柄に対して納得のいかない気持ちがあるために怒っていることである。具体例には、「ある病院に対して怒りの気持ちがある」であった。

### 2) 基本的生活の欲求充足不全

この概念は、病気による症状や皮膚状態を悪化させないための生活上の規制があり、自分が望む生活スタイルの変更を余儀なくされ、衣食住、運動、仕事といった基本的な生活において欲求不満が生じていることである。充足不全とは、満ち足りることが不完全な状態である。

この概念には、「生活行動の充足不全」、「衣類の欲求充足不全」、「食の欲求充足不全」、「住居へ

の欲求充足不全」,「運動の欲求充足不全」,「仕事への欲求充足不全」の6つのディストレスが包含されていた。

### ①生活行動の充足不全

生活行動とは、日常生活の中で行われる様々な営みである。具体例には、「疲労するので外出を取りやめる」,「刺激を避けるため使えない化粧品がある」,「痒みや不眠や身体の疲労感のためにしたいことができない」などがあった。

### ②衣類の欲求充足不全

具体例には、「皮疹が見えると恥ずかしいため着たくても着られないものがある」,「半袖を着たいが肌をさらせないの着ることができない」,「着たい服を着られないことが悲しい」などがあった。

### ③食の欲求充足不全

具体例は、「食いたい物を我慢するとストレスになるので痒くなっても少し食べる」,「皮膚の状態の悪い時は好きな甘いものを我慢する」であった。

### ④住居への欲求充足不全

具体例は、「皮膚のために引っ越したが住むところとして不満がある」であった。

### ⑤運動の欲求充足不全

具体例は、「スポーツができないのは辛い」,「皮膚の悪化への不安からスポーツの誘いに参加できない」であった。

### ⑥仕事への欲求充足への葛藤

これは、仕事をしたいが皮膚の症状の悪化や薬による眠気、悪化への不安のために仕事を辞めたり変わったりして、本来のしたい仕事と現状との間に葛藤が起きていることである。具体例には、「皮膚の状態が悪くて仕事を辞めた」,「朝起きられないために正職員として働きたくても働けずパートにしている」,「悪化への不安から再就職できない」などがあった。

### 3) 高次欲求の充足不全

人間の欲求には、生理的欲求から自己実現の欲求まで5段階あり<sup>9)</sup>、段階が高い欲求はより高次元の欲求である。この概念は、先に述べた基本的生活の欲求充足不全に比べて、「生活を楽しみたい」というより高次の生活欲求が、症状や皮膚状

態を悪化させないための生活上の規制により自分が望む生活スタイルの変更を余儀なくされ、満たされないことである。

この概念には、「美的偽装への欲求充足不全」,「ペット飼育への欲求充足不全」,「楽しみの共有困難」,「外出に対する欲求充足不全」の4つのディストレスが包含されていた。

### ①美的偽装への欲求充足不全

具体例には、「皮膚に影響するので化粧ができない」,「肌のことが気になるので化粧ができない」,「肌のことを気にせず化粧したい」等であった。

### ②ペット飼育への欲求充足不全

具体例は、「悪化への不安からペットを飼うのを我慢している」であった。

### ③楽しみの共有困難

具体例は、「人に肌を見られるのは嫌なので友人と一緒に楽しめない」,「友人とお風呂へ行くのが好きだったが行けないので面白くない」等であった。

### ④外出に対する欲求充足不全

具体例には、「出かけることが少ない」,「人目が気になり外出できない」,「皮膚がひどい時は外出を避ける」などがあった。

### 4) 早期治癒への願望成就不全

この概念は、早く治りたいという願いがかなわない悲しみである。早期治癒とは、病気やけがが早く治ることであり、願望とは、願い望むことである<sup>9)</sup>。

この概念は、先に述べた2つの生活上の欲求に関する概念と異なるため、下位概念と同じ抽象度で独立させた。

### ①早期治癒への願望成就不全

具体例は、「治りたい、仕方がない」,「早く治したい」,「良くなりたい」などであった。

### 5) 不浄視されることへの恐れ

この概念は、人にADによる皮疹や皮膚の紅味を汚く思われないかという感情から生じるディストレスを説明する。不浄視とは、汚れていると見ることである。汚く思われないかという感情は、すなわち、不浄視されないかと恐れる気持ちである。

この概念には、「人の視線に対する恐れ」,「皮

膚に対する他者のネガティブな評価への恐れ」,「外観に対しての自信喪失」,「皮疹の隠蔽」,「自分の身体への劣等感」などの5つのディストレスが包含された。

#### ①人の視線に対する恐れ

このディストレスは、人が自分の皮膚や皮疹を見ることを意識し恐れることである。視線とは、一般的に物をみている時の目の方向であり<sup>6)</sup>、この場合は、自分の皮膚や皮疹に目の方向が向いていることである。恐れとは、この場合は、視線をこわがる気持ちである。具体例には、「人から見られていないか気になる」、「皮疹を見られたくない」、「人の目が気になる」などがあった。

#### ②皮膚に対する他者のネガティブな評価への恐れ

このディストレスは、他人が自分の皮膚を良くない印象に感じていないか気にかかることである。ネガティブな評価とは、否定的な見方をする事である。具体例には、「人が皮膚を見て嫌だと思わないか気になる」、「人に汚いと思われていないか気になる」、「人が気持ち悪く思わないか気になる」などがあった。

#### ③外観に対しての自信喪失

このディストレスは、自分の外観に対しての自信を失うことである。外観とは、外がわから見た様子であり<sup>6)</sup>、自信喪失は、自分の力や腕前や外貌等に対してのねうちを信じる気持ちを失うことである。具体例には、「外観が気になる」、「皮疹があると自信を失う」、「人から見られることに自信がない」などがあった。

#### ④皮疹の隠蔽

これは、皮疹を人から見えないように隠すことについて感じているディストレスであるため、皮疹の隠蔽と命名した。隠蔽とは、おおい隠すことである<sup>6)</sup>。具体例には、「肌を見られることが気になるので隠す」、「皮疹を衣類で隠す」、「皮疹を隠すことが嫌」などがあった。

#### ⑤自分の身体への劣等感

このディストレスは、自分の皮膚に対する自己評価の気持ちである。劣等感とは、人より劣っていると感ずることである<sup>6)</sup>。具体例には「皮疹や紅味が恥ずかしい」、「皮膚をもっときれいにしたい」、「皮疹の痕が目立って嫌だ」などであった。

#### 6) 掻痒感

この概念は、痒みによって生じるディストレスを説明する。掻痒感とは、痒みのことである。

この概念には、「掻痒のつらさ」、「痒みによる生活の支障」、「掻痒誘因への不安」の3つのディストレスが包含された。

##### ①皮膚掻痒感のつらさ

このディストレスは、痒みのつらさを意味している。具体例には「痒くて辛い」、「痒くていららする、家族にあたる」、「痒みが一番辛い」などがあった。

##### ②痒みによる生活上の支障

これは、痒みによって生活上の支障があることである。支障とは、具合の悪いことである<sup>6)</sup>。具体例には、「痒みで洗濯すらできない」、「痒みで仕事が辛い」、「痒みがあると何も手につかない」などがあった。

##### ③掻痒誘因への不安

このディストレスは、痒みを引き起こす原因に対して、痒くなるのではないかと安心できないことである。誘因とは、あることを引き起こさせる原因である<sup>6)</sup>。不安とは、安心できないことである<sup>6)</sup>。具体例には、「食べ物で痒くなったり紅くなったりすることがある」、「掃除を怠ると痒くなる」、「汗をかくと痒くなる」などがあった。

#### 7) アトピーに対する無理解への不満

この概念は、痒みやつらさをわかってもらえないと感じていることである。無理解とは、理解のないことである<sup>6)</sup>。不満とは、気持ちが満たされないことである<sup>6)</sup>。

この概念には、「家族の無理解への不満」、「友人の無理解への不満」、「社会の人の無理解への不満」、「職場の人の無理解への不満」の4つのディストレスが包含された。

##### ①家族の無理解への不満

具体例には、「暑さは痒みを増すので避けたいが親が協力的でない」、「親がわかってくれない」、「親が理解のないことを言う」などがあった。

##### ②友人の無理解への不満

具体例は、「友人にわかってもらえない」、「痒さをわかってもらえない」であった。

##### ③社会の人の無理解への不満

具体例には、「社会はアトピーに理解がない」、「社会の人にわかってもらえない」、「人にはわからない」などがあった。

#### ④職場の人の無理解への不満

具体例には、「職場の人に通院の事情を説明するのが面倒くさい」、「職場から辞めてほしいといわれた」、「職場の人は汗をかくことがアトピーにとって深刻な問題であると捉えていない、入院する必要を感じていないと思う」などがあった。

#### 8) 身体的安楽の充足不全

この概念は、身体的な安楽が満たされていないことによるディストレスを説明する。身体的安楽とは、からだに苦痛や心配がなく安らかで楽な状態のことである。

この概念には、「安楽が得られない悲しみ」、「身体的ニーズの充足不全」、「痛み」、「寝具が汚れる不快感」、「薬剤への不快感」、「ケア継続履行」などの6つのディストレスが包含された。

##### ①安楽が得られない悲しみ

痒みにより睡眠が得られないことは、苦痛で絶えがたいものである。具体例には、「掻かないかと気になって眠れない」、「皮膚の状態が悪い時はぐっすり眠れない」、「痒みで眠れず悲しい」などがあった。

##### ②身体的ニーズの充足不全

これは、休息や苦痛回避など、身体に付随する生理的なニーズが満たされないことである。疲労は、身体の休息が満たされない症状である。具体例は、「疲労感が強い」であった。

##### ③痛み

皮膚状態が悪かったり、掻破により糜爛を生じた時には痛みを伴う。痛みとは、身体に感じる痛さである<sup>6)</sup>。具体例には、「痛みの辛さ」であった。

##### ④寝具が汚れる不快感

このディストレスは、睡眠中の掻破により血や落屑によって寝具が汚れ、不快な感情が生じることである。不快とは、嫌なことである<sup>6)</sup>。具体例は、「掻いて布団が汚れるのが嫌」、「血や落屑で汚れる」などであった。

##### ⑤薬剤への不快感

これは、外用剤の使用感が不快なために生じるディストレスである。具体例は、「軟膏のべとつ

き」、「スキンケアはべとつくので不快」などであった。

#### ⑥ケア継続履行

これは、スキンケアを継続することが必要とされているが、それを実行することにおいて生じるディストレスである。履行とは、約束どおりに実行することである<sup>6)</sup>。具体例には、「スキンケアは面倒くさい」、「スキンケアをさぼりたい時がある」、「朝晩のスキンケアは大変」などがあった。

#### 9) 人間関係の調整不全

この概念は、症状や皮膚状態を悪化させないための生活上の規制を守ろうとすることや入院、治療の継続により、人間関係を整えることができないために生じるディストレスを説明する。調整不全とは、具合よく整えることが完全でないことである。

この概念には、「交友関係の調整不全」、「職場での人間関係の調整不全」、「家族との人間関係の調整不全」の3つのディストレスが包含された。

##### ①交友関係の調整不全

具体例には、「スキンケアの手間のために友人達とあわせられないことがある」、「入退院を繰り返すために付き合いが減る」、「温泉に行けないので付き合いに支障が出てつらい」などがあった。

##### ②職場での人間関係の調整不全

具体例には、「入院すると職場で良く思われないのでつらい」、「職場の付き合いに付き合いえず人間関係が悪くなりつらい」等であった。

##### ③家族との人間関係の調整不全

具体例には、「父親との関係がアトピーの悪化に影響していると感じている」、「母親との関係が良くない」などであった。

#### 10) 生活スタイルの調整不全

この概念は、症状や皮膚状態を悪化させないための生活上の規制により、生活スタイルを整えることができないために生じるディストレスを説明する。

この概念には、「食事の調整困難」、「スキンケアの調整不全」、「衣類素材選択時の調整不全」の3つのディストレスが包含されていた。

##### ①食事の調整困難

具体例には、「一人暮らしでは食事に偏りがあ

る」であった。

## ②スキンケアの調整不全

これは、スキンケアにかかる手間と悪化への不安との調整ができないことである。具体例には、「スキンケアをしないと痒くなるのではという不安がある」、「なんでも使って悪化することへの不安」、「手の届かないところのスキンケアがしにくい」などがあった。

## ③衣類素材選択時の調整不全

これは、衣類の素材を選択するにあたり、症状や皮膚状態を悪化させないための素材と自分の好む衣類の素材との間で迷う状態である。具体例には、「皮膚によい素材の物を着ないと悪化するのではという不安がある」、「皮膚によい素材の物を探す手間がかかる」などがあった。

### 11) 不安

この概念は、疾患への理解や遺伝、副作用、悪化への不安のことである。

この概念には、「体質遺伝への不安」、「薬剤副作用への不安」、「再入院への不安」、「社会のアトピーに対する理解への不安」などの4つのディストレスが包含された。

#### ①体質遺伝への不安

このディストレスは、子供にアトピー体質が伝わるのではという不安である。体質遺伝とは、生まれつきもっている、からだの性質が子供に伝わることである。具体例は、「体質遺伝への不安から結婚に踏み切れない」、「遺伝したらかわいそう」、「出産するのは怖い」などであった。

#### ②薬剤副作用への不安

このディストレスは、外用薬を使い続けることによって副作用が出現するのではないかと気がかりな状態のことである。薬剤副作用とは、薬が病気を治す働き以外に、別な悪い働きをからだに起こすことである。具体例は、「ステロイドの副作用への不安」、「ステロイド以外の薬があればいい」などであった。

#### ③再入院への不安

このディストレスは、症状が悪化し再入院することになるのではないかと安心できないことである。具体例は、「再入院への不安」、「退院しても大丈夫か不安である」などであった。

#### ④社会のアトピーに対する理解への不安

このディストレスは、社会がアトピーという病気をどのように理解しているかわからないために安心できないことである。社会とは、共同生活をしている人々の集まりであり<sup>6)</sup>、学校、家庭、世の中を指す。理解とは、物のすじみちがわかることである<sup>6)</sup>。具体例には、「社会がアトピーをどう受けとめているか自信がない」、「社会のアトピーに対する理解がわからない」などがあった。

### 12) 精神的サポートが得られない悩み

この概念は、悩みを相談する相手と場が得られず悩んでいることである。精神的サポートとは、心の援助である。悩みとは、思いわずらうことである<sup>6)</sup>。

この概念には、「相談相手選択への悩み」、「悩み」の2つのディストレスが包含された。

#### ①相談相手選択への悩み

具体例は、「話を聞いてくれる人や場が少ない」、「誰にも相談できない」、「病気がよくないと家族は嫌がる」などであった。

#### ②悩み

このディストレスは、疾患に関連して思い煩っている精神状態のことである。具体例には、「悩みが多く精神的負担が大きい」、「身体が弱っている時は精神的にも弱っている」などがあった。

### 13) 経済的負担

この概念は、長期化する疾患の治療に伴う経費の負担を意味する。この概念は、他に同類のものがなく下位概念をそのまま独立させた。

#### ①経済的負担

具体例は、「今までの療法にお金がかかった」、「民間療法にお金が多くかかった」などであった。

### 14) 回避困難なディストレス

この概念は、症状を悪化させたくないとか肌を出したくないという気持ちがあっても、仕事や授業などで避けたくとも避けられない状況である。回避とは、あるものに会わないように、またはそうならないようによけることである<sup>6)</sup>。類似の下位概念がないため、そのまま独立させた。

#### ①回避困難なディストレス

具体例には、「仕事上皮膚によくない素材や形の衣類を避けられない場合がある」、「スポーツに



より痒みがでるが、授業なので避けられない場合がある」、「水着になり肌を出さなければならないが、授業なので避けられない場合がある」などがあった。

## 考 察

### 1. ディストレスの特徴

「問題未解決による精神の不均衡」に含まれる7つのディストレス、すなわち、「原因未知への焦燥感」、「ありがた迷惑への困窮」、「親への怨念と自責の葛藤」、「経済的自立への葛藤」、「情報の氾濫と未消化」、「自尊心が損なわれることへの萎靡」、「怒り」は、過去の報告の中には類似のものがなく、今回明らかになったディストレスである。これらのディストレスは、近年のADに関する情報や様々な療法の氾濫が原因となり、患者も家族も翻弄されていることが明らかである。同様のことが「経済的負担」や「アトピーに対する無理解への不満」にも当てはまる。

また、人は誰もが「安楽でいたい」という基本的欲求を持っている。しかし、「基本的生活の欲求充足不全」、「高次欲求の充足不全」、「人間関係の調整不全」、「生活スタイルの調整不全」、「身体的安楽の充足不全」は、AD患者がいかに種々の欲求が満たされていないかを表している。悪化を防ぐためのケアの継続励行はともすれば生活スタイルの変更を必要とし、様々な場面で欲求の充足不全が生じる。このことは、「普通に生活したい」というより人並みの生活を求める患者の言葉に表れている。張らは、外来通院のAD患者に「皮疹が治ったら今と何が違ってきますか」という質問をした結果、「人生設計にかかわることが可能になる」、「趣味、娯楽、スポーツなどができる」、「日常生活に関して回避していることができたり、面倒なことをせずにすむ」などの回答があったことを報告している<sup>9)</sup>。「したいことができない」という本研究の結果とあわせると、AD患者は、ADであるがゆえに自分のしたい生活ができないと考えている。また、「ペット飼育への欲求充足不全」というディストレスは、過去の報告には見られなかったものであるが、これは、近年の一般

社会の生活ニーズが高くなっており、それと同様にAD患者の高次欲求も広がったためと考える。

張らは、AD患者を看護する上で、看護者側にも「接し方が難しい」、「患者に陰性の感情を持ってしまう」などの苦悩があると述べている<sup>9)</sup>。これは、これまでAD患者のディストレスが明確になっていないため、看護者自身もディストレスへの対処がわからなかったことから来ているものと考えられる。したがって、AD患者のディストレスへの理解を深めることで、患者との信頼関係が形成しやすくなり、看護介入もスムーズになるものと考えられる。

### 2. AD患者のディストレスの概念枠組み

吾郷らの「心理社会的因子が発症にかかわるまで」<sup>10)</sup>を参考にAD患者のディストレスと変化過程の概念モデルを図1に示した。どのようなディストレスを持つかは、患者の個人的属性である年齢、性別、職業、家族構成、罹患年数、自己概念、セルフケア能力、皮膚症状によって差異が生じてくる。また、生活環境（ダニ、ハウスダスト、真菌、細菌、植物など）、汗、ふけ、感冒、過労、物理的刺激（摩擦）、界面活性剤、低湿度、食物、家族の支援、医療者との関係、治療状況、ライフイベント、日常苛立ち事といった条件因子にもよる。これらの条件因子は皮膚症状の悪化の誘因となるとされており、ディストレスの発生に関与するものである。AD患者のディストレスは、14の構成要素からなり、これらのディストレスは、家族や友人、医療者、社会の人々の支援と理解、適切な治療、正しい情報を獲得することによって緩和されるものと考えられる。また、患者自身の対処能力やセルフケア能力を身につけることによっても緩和される。周囲の支援も患者自身の努力も得られない孤立無援の状態では、ディストレスは持続、増加の過程をとることになる。

### 3. 本研究結果の活用と限界

本研究の結果は、臨床においてAD患者がどういったディストレスを持っているか把握するために活用できる。しかし、本研究における対象者は、入院経験のある人や面識のある人に限っているため、すべてのAD患者に活用するには限界がある。

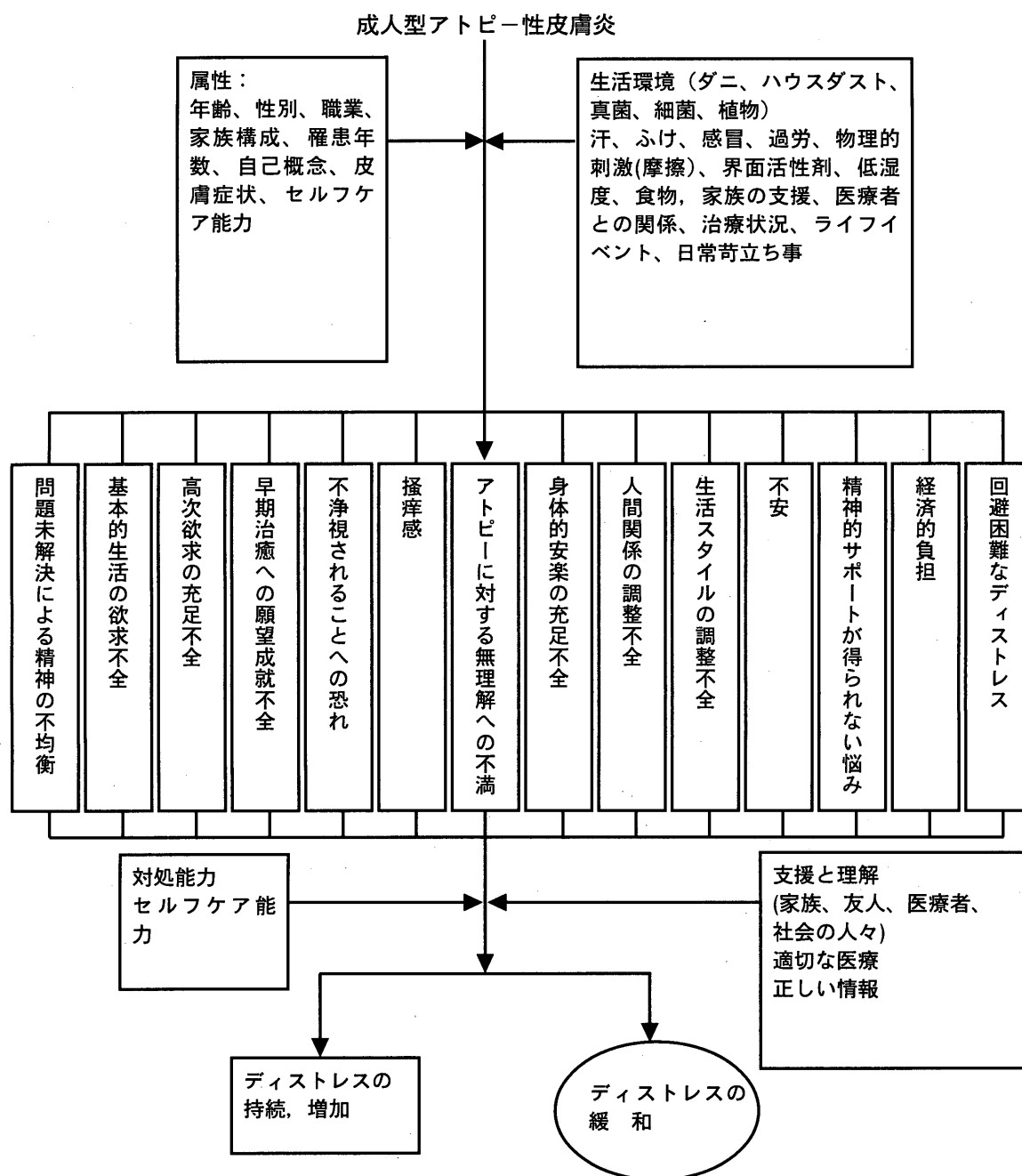


図1. 成人型アトピー性皮膚炎患者のディストレスと変化過程の概念モデル

## 結 語

1. 成人型アトピー性皮膚炎患者のディストレスの構造は、14の上位概念で構成されていた。それは、問題未解決による精神の不均衡、不浄視さ

れることへの恐れ、掻痒感、身体的安楽の充足不全、基本的生活の欲求充足不全、高次欲求の充足不全、早期治癒への願望成就不全、人間関係の調整不全、生活スタイルの調整不全、アトピーに対する無理解への不満、不安、精神的サポートが得

られない悩み、経済的負担、回避困難なディストレスなどである。

2. 原因未知への焦燥感、ありがた迷惑への困窮、親への怨念と自責の葛藤、経済的自立への葛藤、情報の氾濫と未消化、自尊心が損なわれることへの萎靡、怒り、ペット飼育への欲求充足不全などの下位概念は、過去の研究では見出せず、本研究において明らかになったディストレスである。

### 謝 辞

本研究に御協力してくださいました患者様方に心より深謝申し上げます。研究フィールドの御提供に御協力と御配慮を賜った金沢大学医学部附属病院皮膚科診療科長竹原和彦教授に深謝申し上げます。また、本稿校正の段階では、基礎看護学の横田恵子先生にお世話を承り、厚くお礼申し上げます。

### 引用文献

- 1) 竹原和彦, 川島真, 塩原哲夫, 橋本公二, 江藤隆史, 古江増隆, 中川秀己, 大槻マミ太郎, 古川福実, 飯塚一, 松永佳世子(著) 竹原和彦, 川島真, 古川福実(監修): 専門医がやさしく語るアトピー性皮膚炎. 暮らしの手帖社, 東京, 176-195, 2001.
- 2) 土岐尚親: ストレスよりみた成人型アトピー性皮膚炎. 広島医学52: 54-57, 1999.
- 3) 小林美咲: アトピー性皮膚炎患者の掻破行動の検討. 日皮会誌110: 275-282, 2000.
- 4) 宮原裕子, 今山修平, 古江増隆: アトピー性皮膚炎とストレス. 総合臨床47: 2611-2615, 1998.
- 5) 檜垣祐子, 有川順子, 吉原伸子, 川本恭子, 加茂登志子, 堀川直史, 川島真: アトピー性皮膚炎の難治化における心理社会的負荷の関与について—コンサルテーション, リエゾン医療の試み—. 日皮会誌110: 27-34, 2000.
- 6) 塩田良平, 吉田精一監修: 標準国語辞典. 旺文社, 1965.
- 7) 梅棹忠夫, 金田一春彦, 阪倉篤義, 日野原重明監修: 日本語大辞典. 講談社, 1989.
- 8) 波多野梗子: 系統看護学講座 専門1 基礎看護学[1]看護学概論. 医学書院, 87-97, 2001.
- 9) 張莉恵, 大和まき子, 野坂直美: [成人のアトピー性皮膚炎; 最新の治療とケア] 事例に見る看護の実際 アトピー性皮膚炎患者の看護. 臨床看護27: 1003-1009, 2001.
- 10) 吾郷晋浩: アレルギー疾患の心身医学的治療. アレルギー50: 5-10, 2001.

## Study on distress for Atopic dermatitis patients in adult

—Conceptual frame-work of distress—

Keiko TOKUDA<sup>1)</sup> Shizuko TAKAMA<sup>2)</sup>

1) Master Course of Nursing, Toyama Medical and Pharmaceutical University

2) Department of Fundamental Nursing, School of Nursing, Faculty of Medicine,  
Toyama Medical and Pharmaceutical University

### Abstract

The purpose of this study was to examine distress and to make frame-work of distress for Atopic dermatitis's patients in adult. In results 14 constructs constitute conceptual frame-work of distress for Atopic dermatitis's patients in adult. These were 14 constructs constitute conceptual frame-work of distress. Those were 'Imbalance state of mind is due to unsolved problems' 'Danger of looking uncleanliness' 'To feel itchy' 'Sufficiency failure of physical comfortable state' 'Sufficiency failure of the desire to live the fundamental life' 'Sufficiency failure of the high level desire' 'It is not possible to wish a disease cure early' 'Regulation failure of the relation of person to person' 'Regulation failure of life' 'Discontent with lack of understanding Atopic dermatitis' 'Anxiety' 'The worries that can not get mental support' 'Economic burden' and 'Distress that can not avoid' .

### Key words

Atopic dermatitis, s patients, distress